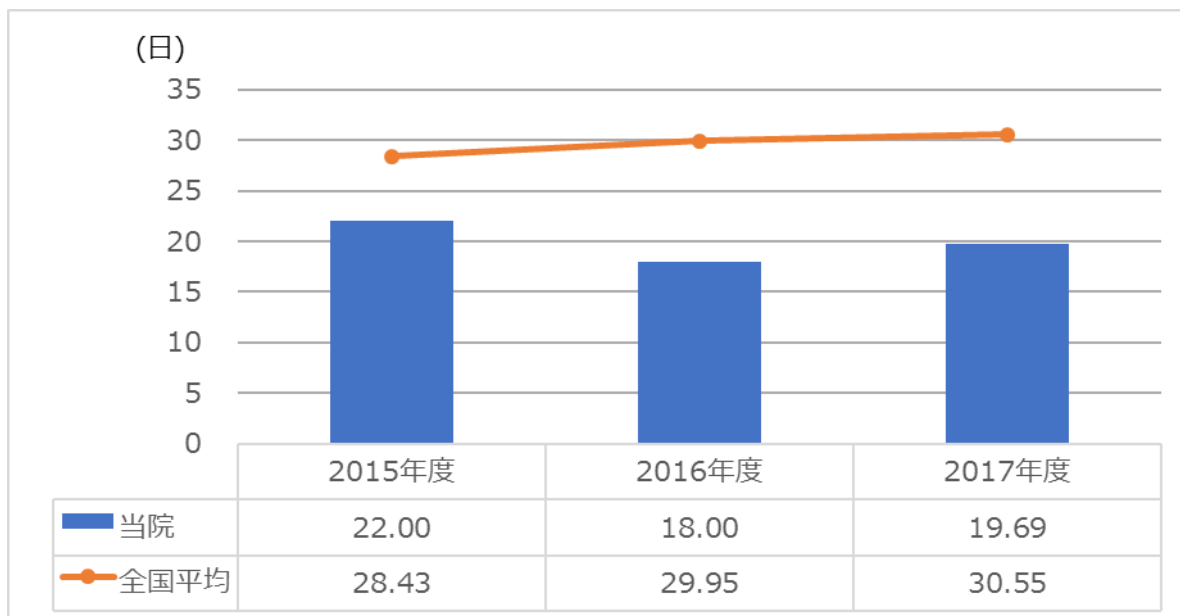


指標 5 院内肺炎症例の平均在院日数



<定義>

分子	: 院内肺炎症例の在院日数合計
分母	: 院内肺炎症例数
期間	: 2015年度～2017年度（1年毎に集計）
対象	: 上記期間の退院患者
値の解釈	: 短い方が望ましい

<解説>

院内肺炎は主に他疾患で入院中に生じた肺炎であり、その発生は患者さんに大きな負担をかけ、入院期間も長くなります。当院では感染管理を通じて発生を予防するだけでなく、栄養管理や食事訓練等リハビリの充実を通じて早期治療を図っていきます。

ただし、入院の原因となる疾患や、入院中に肺炎を生じた時期についてはデータから判断できないため、単純な長短で医療の質を計ることには限界があります。

※ 本データは厚生労働省提出用のDPCデータを基に作成されています。また、全国平均の値については、当院が参加している「医療の質と経済性に関する実態調査【京都大学大学院QIP事業】」における「医療の質の指標」の計測結果（事業に参加する全国の病院の平均値）を用いています。

【参考 URL】

<http://www.kch.kagoshima.jp/about/qip.html>（当院のQIP参加について）

<http://med-econ.umin.ac.jp/QIP/CI.html>（QIPにおける計測結果）